

## 神奈川県立歴史博物館

開国をテーマとする「海の学び」学習支援プログラムの開発に関する基礎的研究

調査研究期間：平成29年10月6日（金）～平成30年6月30日（日）



### 【調査研究の内容・目的】

- 学校における「海の学び」については、主に理科分野が中心であったことから、神奈川の歴史ならではの「開国」をテーマに、資料を活用した「海の学び」学習支援プログラムとして、教員及び児童向けの「授業案・手引き」のプロトタイプを開発し、神奈川県内の博学連携の強化を推進する第一歩としました。
- 博物館を知る教員と学芸員を研究分担者とする研究会を組織し、資料調査や他の博物館の事例研究を行い、2年計画2年目の本年度は、主として小学校教員向けプログラムと児童向けプログラムについて検討しました。
- これにより、これまで「海の学び」のみならず、博物館（資料）の活用に関心を向けてこなかった教員が、積極的に博物館ならびに資料を利用する機会を増進することにつながりました。

※上記写真は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

# 1. 調査研究内容の詳細

## 【調査研究代表者】

■ 嶋村元宏（神奈川県立歴史博物館 主任学芸員）

## 【調査研究分担者】

■ 梶 輝行（横浜薬科大学 教授、元神奈川県教育委員会高校改革担当課長・社会科教諭）

■ 吉村智博（大阪人権博物館 学芸員）

■ 松本英治（開成高等学校 教諭）

■ 澤村怜薫（行田市郷土博物館 学芸員）

## 【実施計画】

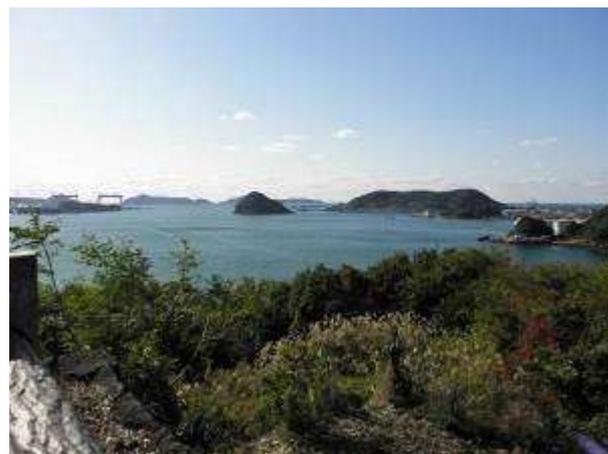
■ 2カ年計画 2年目

## 【主な調査研究対象など】

■ プログラム材として活用可能な資料の発掘

■ 博学連携の先行事例

■ 主に小学校教員が活用できるプログラムの開発



- 長崎台場跡から港内の海防設備跡を確認する研究分担者。

- 長崎港へ入港するオランダ船が一時停泊することが求められていた高鉾島。

神奈川の歴史ならではの「開国」をテーマとした、「海の学び」学習支援プログラムの開発を目的とする本調査研究では、開国史に詳しい教育関係者と他館で博学連携を担当する学芸員を調査研究分担者とする「海の学び」研究会を組織し、小学校教員向けプログラムの作成を主たる目的として2年計画でプログラム開発を目指しました。本年度は、2カ年計画の2年目として、下記の活動を行い、その成果を、学習指導案ならびにその解説書としてまとめました。

- 現地調査 11月19日 長崎港周辺海防施設調査  
文化5年のフェートン号事件により、海防強化が図られ設置された台場を中心に調査を行い、湾内防備上重要な拠点であることを再確認した。特に、伊王島の真鼻台場は、外海と内海の境界に位置し、長崎港に入港する船の一望できる位置になること確認しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



長崎歴史文化博物館



研究会風景

- 研究会（第5回、回数は通算、以下同じ） 11月20日 於：長崎歴史文化博物館

長崎歴史文化博物館教育グループリーダー竹内有理氏による「長崎歴史文化博物館における博学連携事業について」をテーマとする報告を受けました。

特に、

- 学校向けプログラム
- 協力校・パートナーズプログラム

について、紹介が行われました。

上記報告をもとに特に、「学習効果」をいかに高めるかという点を中心に議論を行いました。



長崎港西側 神崎台場付近



高鉾島

- 11月20日 現地調査 長崎港

船上から、長崎港沿岸に設置された海防施設跡を確認するとともに、オランダ船が検視を受けた高鉾島の周辺について確認しました。



名古屋市蓬左文庫入口



名古屋市蓬左文庫

○ 資料調査 12月5～6日 名古屋市蓬左文庫

名古屋市蓬左文庫は、江戸時代以来の尾張徳川家旧蔵書を中心に、昭和30年代から50年代にかけて愛知県ゆかりの国学者、教育者、コレクターなどから寄贈された蔵書を所蔵する。今回調査の対象とした尾張徳川家旧蔵書は、昭和25年に徳川黎明会（昭和5年設立、現在公益財団法人）より移管されたものである。

今回の調査では、「異州使節次第」などの尾張藩に残ったペリー来航時の探索記録をはじめとする25件について実物資料を閲覧うえ、学習支援プログラムに活用可能な部分については、マイクロフィルムからの紙焼きにより収集しました。

尾張藩においても、ペリー来航に関わる資料が多数集められており、名古屋市周辺の学校においても、ペリー来航に関わる学習資料として活用できることを確認しました。



金沢市立玉川図書館



近世史資料館入口

○ 資料調査 1月9日～10日 於：金沢市立玉川図書館 近世史資料館

近世史資料館が所蔵する加越能文庫所収資料を中心に、資料原本を熟覧するとともに、プログラム開発に必要と思われるものについては、デジタルカメラ撮影により収集しました。

加越能文庫は、前田育徳会尊経閣文庫から金沢市へ寄贈された旧加賀藩関係の資料群です。

「加賀藩領奏之絵図二付御達」をはじめとする、地域学習に利用可能な資料を確認することができました。



研究会風景



神奈川県立歴史博物館

- 研究会（第6回） 2月4日 於：神奈川県立歴史博物館  
指導案について、「海防」、ペリー来航、開港の3つのテーマそれぞれの内容の検討を行いました。  
特に、新学習指導要領との整合性をどこまで図るべきか、社会科を念頭に議論を進めてきましたが、他の教科への応用が可能かどうかということも検討しました。



研究会風景



神奈川県立歴史博物館

- 研究会（第7回） 3月11日 於：神奈川県立歴史博物館  
指導案の検討を深めました。  
特に、神奈川以外の地域でも活用可能な発展性のある指導案となるよう議論しました。  
美術館における博学連携の実情を把握するために、横浜美術館教育プロジェクトリーダーの端山聡子氏より、「学校との連携—横浜美術館の所蔵作品と展示をめぐって—」をテーマとする報告をもとに、展示をいかに学習プログラムに生かすかということを中心に議論しました。  
「教える」のではなく、「気づかせる」ということが学校とは違う博物館の役割であることを再認識しました。



大阪人権博物館



研究会風景

○ 研究会（第8回） 4月7日 於：大阪人権博物館

- 1 学習支援プログラムについては、「海防」、「ペリー来航」、「開港」の3テーマにつき、発展的な学習をおこなうためのオプション項目について検討しました。新学習指導要領（小学校においては、取り上げるべき人物が示されている）に合わせ、以下の基本方針を決定しました。
  - ・ 「海防」については、杉田玄白から蘭学者の海外意識と海防へ結びつけることにしました。
  - ・ 「ペリー来航」については、ペリーその人から、ペリーがどのように海とかかわったかを考えられるようにしました。
  - ・ 「開港」については、蘭語を習得した福沢諭吉が、横浜へやってきて蘭語は通じず、英語の重要性を認識したという逸話をきっかけに、遣外使節団の一員として海を渡った福沢の活動に注目させることにしました。

以上を、各施設が所蔵している資料をもとにプログラムとすることにしました。

- 2 大阪人権博物館における、博学連携事業について、過去に作成したワークブックをもとにした報告が吉村氏からありました。ワークシートは、学校教員と他館の学芸員との研究会を通じて作成したものであり、単なる穴埋めではなく、展示資料をみて感じたことや考えたことを述べるものとなっていること、キャプションではなく、資料に以下に目を向けさせるかに工夫が凝らされたものとなっていること、などが紹介されました。
- 3 上記のワークブックに作成に参加し現在大阪市教育センターで指導主事として現場の教員を指導する立場にある畑中氏から、大阪人権博物館を会場に教員研修を実施した経験を踏まえつつ、教員の立場から博物館に求めることを中心に報告が行われました。



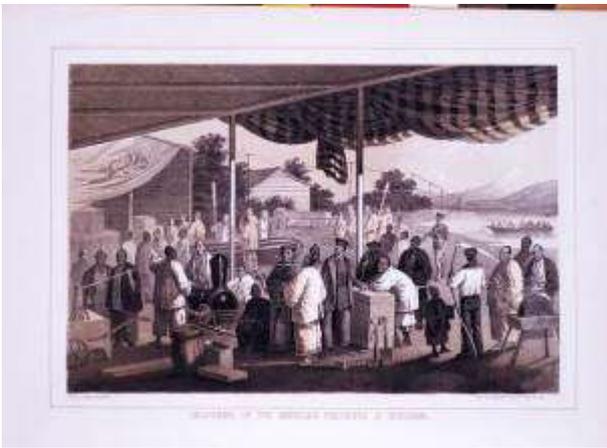
吹田市立博物館



早乙女氏（左）から事例を聞く

○ 事例研究 4月8日 於：吹田市立博物館

- 1 文化庁主催のエデュケーター研修講師も務める五月女賢司氏が勤務する、吹田市立博物館の博学連携事業を中心に、学習支援事業について、聞き取りを行いました。小学校3年生向け展示として、「むかしのくらし」展示を退職校長先生が主導して実施しており、市内の約70%の小学校が展示見学に訪れ、来館が困難な学校に対しては、一部の展示物を学校へ運搬したうえで出前授業を開催するとのことでした。また、中学校対応として、展示解説リーフレットの各学校の教員と協働製作し独自の内容を盛り込むということでした。
- 2 国立民族学博物館では、70年万博にわせ世界各地から収集された民族資料を中心に、学習支援プログラムへの活用を念頭に確認を行いました。



プログラム使用候補資料①（神奈川県立歴史博物館蔵）



プログラム使用候補資料②（神奈川県立歴史博物館蔵）

○ 研究会（第9回） 3月17日 於：神奈川県立歴史博物館

学習支援プログラムのとりまとめを行いました。

また、提供の仕方について検討しました。

神奈川県立歴史博物館が所蔵する資料の取扱と、他機関が所蔵する資料の取扱では、それぞれ異なることから、著作権法に抵触しないようにするため、他機関所蔵資料については、画像を指導案に添付するのではなく、画像がアップされているURLにアクセスしてもらい、教室内で見ることを条件にすることとしました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## 2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

■博物館活動の形態：①教員のための博物館講座、②2019年度特別展「北からの開国」、③2019年度特別展関連行事、④出張講座

■実施時期：①平成30年7月27日（金）、②2019年7月13日（土）～9月1日（日）、③②の会期中、④平成30年9月から、毎年度6回程度

■実施場所：①神奈川県立歴史博物館講堂、②神奈川県立歴史博物館特別展示会場、③神奈川県立歴史博物館ほか、④県内小学校

### 【実施内容】

- ①学校教員向けに、博物館資料の活用事例を紹介します。
- ②展示を通して、「海の学び」を促進します。
- ③特別展に関連した内容で、例年実施している教員のための博物館口座の拡大版を実施します。
- ④出張講座で、児童へ「海の学び」を実践します。

### 【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

■ ③の関連行事として、教員向けに三浦半島の海防施設跡の見学会を実施し、地元の教員とともに、現地を歩くことで、教員が授業で「海の学び」を実践できるよう支援を行います。

### 【特に学校教育との連携について】

- 上記に示した、教員向けの支援を実施します。
- 出張講座を実施します。
- 学習指導プログラムにもとづき児童を対象とした講座を実施するだけでなく、訪問した学校の教員が、プログラムを活用できるよう支援します。

## 【事業全体のまとめ】

- ① 教員および他館で博学連携にかかわる学芸員とともに研究会を組織し、調査研究テーマについて多角的に議論することにより、多様な学習支援プログラムをそろえることができた。
- ② 他の博物館の博学連携状況を実見する機会を持つことができた。
- ③ 当館所蔵資料に加え、他機関所蔵資料を調査研究することで、学習支援プログラムの幅を広げることができた。
- ④ 本調査研究にかかわる資料について、地元の研究者から意見を得る機会を持てた。
- ⑤ 小学校教員向け指導案作成過程において、現職・元職の小学校教員から意見をいただく機会を設けることができ、現場に即した指導案作成をすすめることができた。

## 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 長崎歴史文化博物館	博学連携事業の実例報告
2. 名古屋市蓬左文庫	資料調査
3. 金沢市立玉川図書館 近世史料館	資料調査
4. 横浜美術館	博学連携事業の実例報告
5. 吹田市立博物館	博学連携事業の実例報告
6. 大阪人権博物館	博学連携事業の実例報告

## 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1.	
2.	
3.	
4.	

以上